

# 新型コロナウイルス感染症 今、わかっていること



日本救急医学会救急科専門医  
日本集中治療医学会集中治療専門医  
インфекションコントロールドクター (ICD)

堀 雅俊

## 本当に オミクロン株は怖くない？

比較的軽症といわれるオミクロン株ですが、**60歳以上の重症化率は季節性インフルエンザの約3倍**のようです。

	重症化率	
	60歳未満	60歳以上
新型コロナ・オミクロン株流行期	0.03%	2.49%
新型コロナ・デルタ株流行期	0.56%	5.0%
季節性インフルエンザ	0.03%	0.79%

オミクロン株も含めて、やはり「**コロナはただの風邪ではない**」と感じさせられます。



## オミクロン株対応ワクチン

従来ワクチンは、デルタ株などに比べオミクロン株に対してはやや効果が劣ることが報告されてきました。

そこで **従来株 + オミクロン株BA.1** に対する2種類が混合された **ワクチン(2価ワクチン)** の接種がよいよ開始される見込みです。

オミクロン株BA.1に対する効果(接種後の中和抗体価)は従来ワクチンに比べ**1.5~2倍**ほどといわれますが、一方でBA.4やBA.5に対しては少し効果が落ちるおそれも指摘されています。一方、重症化予防効果は、従来ワクチンでも十分に期待できます。

以前のような予約殺到も懸念されます。最後の接種から6か月以上経っている方は、新しいワクチンを待って先延ばしにせず、すぐに**接種可能なワクチンを打つことも検討**した方がよいでしょう。



## 日本小児科学会も 「5~17歳のすべての小児に コロナワクチン接種を推奨する」と発表



小児の重症化はまれですが、第7波では呼吸不全や熱性けいれんが増加し、少数ながら死亡例も報告されています。ワクチン接種により重症化が**40~80%ほど予防**できる一方、副反応は12~17歳では若年成人と同等程度、5~11歳ではより少ないことがわかってきました。これらのことから、デメリットよりメリットが大きいと判断され、推奨されることとなったようです。

ただし、あくまでも「努力」義務であり、強制ではありません。「何となく怖いから」とか「周りの人が打つから」ではなく、**効果と副反応のメリット・デメリットを本人と保護者がよく理解して、「接種すべきかどうかを吟味する努力」が大事**なのではないでしょうか。



## インフルエンザの流行予測

例年猛威をふるうインフルエンザですが、2020~2021シーズン、2021~2022シーズンはほとんど流行しませんでした。マスクなどの感染対策や渡航者の減少などが影響した結果と考えられていますが、2022年初夏よりオーストラリアをはじめとして**世界のあちこちでインフルエンザの患者が発生**しています。規制緩和や屋外でのマスクなしなど、感染対策への意識が下がることで日本でも今シーズンは**インフルエンザの再流行がある**かもしれません。

**症状に対する注意、手洗い、必要に応じたマスク着用、そしてインフルエンザワクチン**など、特に高リスクの方は対策を講じておきましょう。



※2022年9月上旬までの情報をもとに作成